©東京新聞

生活

Dr.松井英男の在宅医療のカルテ

褥瘡のケア

遠隔で画像診断も

寝たきりで長い間、同じ姿勢をとると、腰の後ろや側面に体重がかかり、表面の皮膚が圧迫され続ける状態になります。初めは皮膚の色が赤くなるだけですが、血流障害で皮膚がただれ、潰瘍が生じることがあります。これが床ずれ、いわゆる「褥瘡（じょくそう）」です。栄養状態が悪かったり、おむつが常に汚れていると、悪化します。

褥瘡は予防が重要です。体の姿勢を定期的に変え、体圧を分散するマットレスを使うなどの介護が必要です。

褥瘡が生じた場合は治療が必要になります。基本的に消毒の必要はなく、水洗後に薬剤を塗って深い傷口となっている「創部」をフィルムなどで覆うのが一般的です。壊死（えし）した組織を切り取ることもあります。重度の場合は連日の処置が必要で、訪問看護師と連携して治療にあたります。

治療には、創部を画像でチェックすることが重要です。治療で良くなっているのか悪化しているのか、そういった情報を共有する必要があるのです。

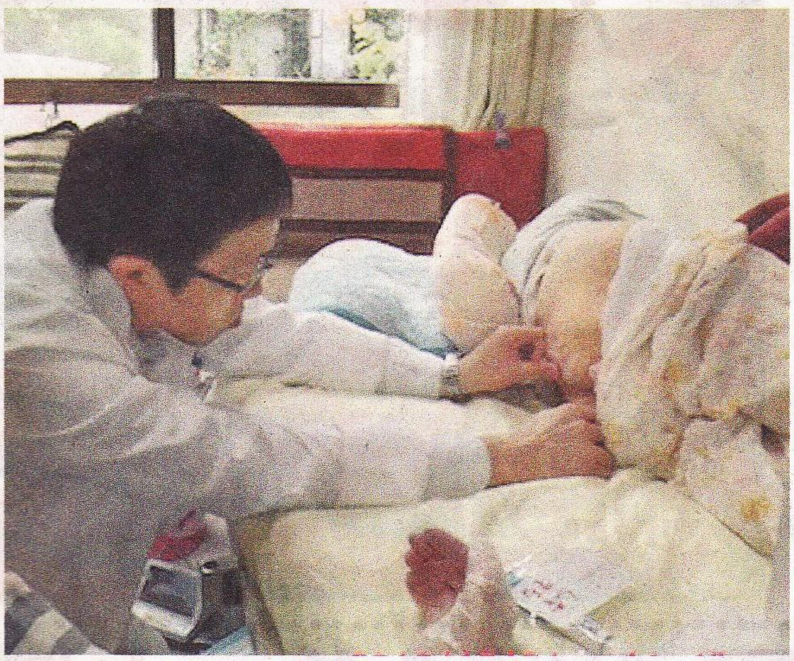
当院では、タブレット型端末で撮影した画像を、大学のサーバーに転送するシステムを開発しています。遠隔地からでも医師による診断を受けることもでき、看護師ともリアルタイムで画像を共有できるようになります。

そのためには、セキュリティー上も情報通信技術に関する基準を満たすシステムでなくてはなりません。また、画像も、目の前で実際に診察しているくらいの高画質でなくてはなりません。

このような課題はありますが、患者中心の医療を進めていくためには、情報通信技術はなくてはならないものなのです。

（川崎高津診療所院長）

＝次回は十二月十八日掲載



褥瘡を治療する